造影CT・MRI検査を受けられる方へ

造影検査の必要性

造影剤は画像診断においてより多くの情報を得るために使用される薬剤です。造影剤は血管内に注射され全身の血管や臓器へ循環し病気の性質や臓器の状態などが鮮明に描出されるため、体の状態をより正確に知ることができ今後の治療方針の決定などに役立ちます。

造影検査のリスク

・体調、体質などにより副作用が出現する場合があります。軽い副作用（約1%）としてかゆみ、じんま疹、発赤、悪心、吐き気、嘔吐、腹痛などがあり、重い副作用（約0.05%）として呼吸困難、意識障害、血圧低下、アナフィラキシーショック、腎性全身性線維症などがあります。

・副作用は造影剤注射後30分以内に現れることがほとんどですが、検査終了後1時間から数日の間に遅発性に現れることもあります。

副作用に対する対応　軽度　：経過観察だけで改善する場合が多いです。
中等度：症状に応じた薬剤を使用する場合があります。
重度　：入院治療を必要とする場合もあります。

・造影剤は血管内に勢いよく注入するため、血管外に造影剤が漏れることがあります。注射部位が腫れて痛みを感じたり、稀にコンパートメント症候群に至る場合もあります。

コンパートメント症候群　強い腫れにより血管が圧迫され血流が途絶え知覚障害や運動障害、虚血状態から壊死に至ることもあります。

少量なら影響は少ないですが多量の場合は1～3日、1日3回、15～60分冷やすなどして腫脹・発赤が消えるまで間欠的に続ける必要があります。

・造影剤が体を循環するときに体が熱く感じることがあります。これは皆さん起こる正常反応ですので心配ありません。それ以外で検査中に異常を感じた場合はすぐにスタッフまでお伝えください。検査にあたっては注意を払い適切に対処していく所存ですが、必要性とリスクをご理解くださるようご協力お願いいたします。

検査禁忌事項

造影剤アレルギー、気管支喘息、重い腎機能障害、著しく全身状態の悪い方に対しては副作用のリスクが高くなるため検査を行えません。
糖尿病薬を服用中の方は必ずお申し出ください。服用を数日前から休止しないと検査を受けていただくことが出来ません。

医療法人社団　一陽会　服部病院

TEL：0794-82-2550